

# 謹賀 新年

# JAERA NEWS LETTER

一般社団法人日本自動車リサイクル機構 ニュースレター

- 巻頭言 / 年頭にあたってのご挨拶 … P1
- 関係機関の皆様より、年頭のご挨拶 … P2
- 斉藤国土交通大臣に道路運送車両法回送運行の許可に関する陳情を行いました / 千葉県印旛(いんぱ)地域ヤード対策連絡会議への参加 … P3
- 第2回理事会・第3回ブロック長会議の結果 / 第1回自動車リサイクル推進会議 / 第1回自動車リサイクル会議での講演 … P4
- 2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業 11月出荷状況と今期累計/11月新車販売・使用済自動車発生台数 … P5
- 鉄スクラップ最新情報 … P6
- 行事予定 / お知らせ / 編集後記 … P7

## 年頭にあたってのご挨拶

令和五年 元旦

皆さま、新年明けましておめでとうございます。

新しい年が皆さまにとって健やかで幸多い年でありますよう、心からお祈り申し上げます。

新型コロナウイルスの流行から4年目、今年はどうのような年になるでしょうか。昨年は2月にロシアがウクライナに侵攻するという蛮行を犯し、現在も世界の政治、経済に悪影響を及ぼしています。

また、7月には安倍元首相が狙撃され亡くなるという信じがたい事件が起こり、このことで旧統一教会と政治家の関係があぶり出されました。コロナの度重なる流行もあり、暗いニュースで終わりそうな一年を、最後にワールドカップ日本代表サムライブルーが感動を与えて救ってくれた、というのが平均的な振り返りでしょうか。

さて、我々自動車リサイクル業界は、使用済み自動車の入手難、仕入れ価格の高騰と非常に厳しい経営環境が続いております。一方で2050年のカーボンニュートラルの達成のため、よりその果たす役割に大きな期待をされています。特にマテリアルリサイクル促進のためのインセンティブ制度は、今年中にその骨格が作られると思えます。当面の対象は、PPとガラスということになっていますが、それ以外のナイロンやアクリルなどの樹脂、また今後大幅に増加する電動車のバッテリー回収など、我々が求められる役割は増えていきます。

会社経営は個々にするものですが、ライバル会社間であっても競争領域と協調領域が存在すると思えます。自動車リサイクル機構は、社会に対する業界の窓口の役割はもちろんのこと、業界内での協調領域の事業を行うことが使命と考えています。そのために今年も皆さまと力を合わせて活動をしてまいりますので、ご理解、ご協力よろしくお願いたします。

一社) 日本自動車リサイクル機構  
代表理事 酒井 康雄



## 巻頭言

明けましておめでとうございます。2023年令和5年今年の干支卯(うさぎ)は穏やかで温厚な性質であることから家内安全の意味を示しているそうです。また、跳び姿から「飛躍」・「向上」を象徴することで、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われていました。また、株式相場では、兎は跳ねる特徴があるため、景気が好転または回復と言われていました。昨年は世界での半導体不足や物価の高騰により生活環境が大きく変わり、円安の影響なども重なり日常にも大きく変化があった1年となりました。

2023年は2020年にコロナの影響で延期になった鹿児島国体「燃ゆる、感動がごしま国体」が開催されますので、大きな感動が生まれると期待しています。私も今年年男になりますので、新しい気持ちで何事にもチャレンジしながら、今年こそコロナ前の日常に戻る年になればと心から願っています。

(広報部会 伊地知 志郎)

《編集・発行責任者》  
一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
広報部会長 田村 幸男

《お問い合わせ先》  
一般社団法人日本自動車リサイクル機構  
〒105-0004  
東京都港区新橋3丁目2番2号  
TEL: 03-3519-5181  
FAX: 03-3597-5171  
MAIL: jaera-homepage@elv.or.jp  
H P: <http://www.elv.or.jp/>

# 関係機関の皆様より、年頭のご挨拶



経済産業省  
製造産業局 自動車課  
自動車リサイクル室長  
**金谷 明倫 様**

新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。また日頃より適正な自動車リサイクルの推進に御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、使用済自動車の減少・調達価格の高騰等がありました。今後の国内生産・新車販売の回復が、自動車リサイクル業界に良い影響を与えることが期待されます。

本年は、資源回収インセンティブをはじめ資源循環経済など様々な取組を推進し、自動車リサイクルの更なる発展に取り組むと考えております。皆様におかれましては、引き続き適正な自動車リサイクルについて一層の御協力をお願いいたしますとともに、貴機構会員各位の益々の御発展と御健勝を祈念いたしまして新年の御挨拶とさせていただきます。



環境省 環境再生・資源循環局  
総務課  
リサイクル推進室長  
**水谷 努 様**

2023年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

日頃から関係機関の皆様におかれましては、使用済自動車の適正なりサイクルに御尽力いただき深く御礼申し上げます。

環境省では、法施行15年目の評価・検討報告書の提言を踏まえ、「自動車リサイクルのカーボンニュートラル及び3Rの推進・質の向上に向けた検討会」を昨年立ち上げました。自動車リサイクルにおけるカーボンニュートラルに向けた対策検討や3Rの推進・質の向上に向けた議論を重ね、自動車リサイクルの更なる発展に向け取り組むと思います。

引き続き、皆様方の一層の御協力をお願いするとともに、御健康と御多幸をお祈りして、年頭の御挨拶とさせていただきます。



公益財団法人  
自動車リサイクル促進センター  
専務理事  
**阿部 知和 様**

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日頃から弊財団の活動にご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年もコロナ禍に翻弄された厳しい年となりました。また、新車販売の低迷による使用済み車発生的大幅減少など、解体業界においてはこれまでにない難しい環境であったと思います。

弊財団としましても、変化の激しい時代に対応すべく、自動車リサイクルシステムの大規模改造など、皆様の利便性向上に取り組む所存でございます。

本年の皆様方の益々のご発展とご健勝を祈念致しますと共に、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しく願い申し上げます。



一般社団法人  
自動車再資源化協力機構  
代表理事  
**嶋村 高士 様**

新年明けましておめでとうございます。

平素よりフロン類、エアバッグ類、リチウムイオンバッテリーリサイクルへのご理解ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は半導体不足や急激な円安等の影響で、使用済み自動車の減少や価格高騰など、自動車リサイクル業界も大変厳しい年となりました。そうした状況のなかでも、多くの優良事業者様が会員である貴機構では、弊機構が進める次世代モビリティリサイクラー認定制度など、未来へ向けた新たな取組を進めていただいております。

当機構は本年も皆さまと自動車メーカーを繋ぐパートナーとして、より一層の連携を図ってまいります。

貴機構の益々のご発展ならびに会員の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

# 01 齊藤国土交通大臣に道路運送車両法回送運行の許可に関する陳情を行いました

# 01

12月6日(火)にNGP日本自動車リサイクル事業協同組合を代表陳情者として当機構を含む計5団体が齊藤国土交通大臣を訪れ、“道路運送車両法回送運行の許可(第36条の2)に関する陳情を行いました。趣旨として、自動車解体事業者が使用済自動車の引き取りや放置車両等の引き取りを実施する際に様々な理由により公道利用(走行)を行い積み込みしなければならない場合など、回送運行許可や臨時運行許可が必要になるケースが多々発生しており、現状、回送運行許可の条件が自動車の製作、販売、陸送、分解整備業に認められていることから、循環型社会構築のかなめ産業であり、かつ、放置自動車などの不動態や車検切れ車を頻繁に扱う自動車解体業も回送運行許可の申請に許可業種として追加をいただくよう陳情いたしました。



【陳情書を受け取る齊藤国土交通大臣(写真左から4番目)】

【陳情者】NGP日本自動車リサイクル事業協同組合、(一社)日本自動車リサイクル部品協議会、(一社)日本自動車リサイクル機構、リビルド工業会全国連合会、(株)ビッグウェーブ

# 02 千葉県印旛(いんば)地域ヤード対策連絡会議への参加

# 02

11月22日(火)千葉県警察本部主催の、「第7回印旛地域ヤード対策連絡会議」が開催されました。本会議は千葉県が全国に先駆けて2015年に制定したヤード適正化条例をより実効あるものとするため、県内ヤードの6割以上を占める印旛地域において、千葉県警本部、千葉県、管内警察署、消防を含む市町村が参加し、ヤードの現状や対応策など情報共有するため毎年開催されているものです。こちらには、当機構千葉県支部が業界代表として当初より参加し、活動について報告をしてきました。

ヤード問題は当機構として合同会議でも度々発信し、行政や関係団体とも問題意識を共有しているところであり、今年度の会議開催にあたっては自動車リサイクル促進センター、自動車再資源化協力機構に協力をいただき会議に臨みました。当日は自動車リサイクル促進センターより情報管理部の鈴木課長、再資源化支援部の鶴田課長が出席され、参加者の皆様に自動車リサイクル法の概要や当機構を含む3団体の役割、事業内容について説明し、当機構については主に自動車リサイクル士制度について説明をしました。

各警察署、市町村の担当の皆様はこの制度や事業内容を知っていただき、自動車リサイクル士制度を含む各支援策を利用することで、ヤード問題の解消に向かえばと期待しています。

12月7日(水)に第2回理事会・第3回ブロック長会議がFORUM S5 東洋海事ビルで開催されました。理事会では上期の事業・収支報告が主な内容となりましたが、そのなかで先日行った“コロナ禍在庫台数・仕入価格の増減に関するアンケートの結果”(ニュースレターVol.165の4P参照)について言及があり、「我々が感じている数字と近い」といった声が上がりました。また、資源回収インセンティブ制度や外国人事業者、インストラクター制度、自動車リサイクル士制度などに対する機構のあり方や考え方について、「今後より明確にしていくべき」という意見が上がりました。

一方、ブロック長会議では“会員の増強”がテーマとなり、11月に東北ブロックで行われた「東北ブロック地域団体合同交流会」(ニュースレターVol.165の2・3P参照)がキッカケで入会に繋がった事例の紹介が行われました。また、会員増強活動を行った方の「機構の活動を理解いただき賛同を得るケースが多いため、まずは会員でない方々に対してどうやって機構を知ってもらい、理解してもらうかが重要である。」との意見に共感の声が上がる一方、「会員増強に対する目標・目的を明確にすべき」、「スピード感をもって取り組むべき」、「増強委員会設置の検討を進めるべき」など、今後の取り組みについても多くの意見が飛び交いました。



【会議の様子】

## 第1回自動車リサイクル推進会議

## 04

日本自動車リサイクル部品協議会(リ協)、日本トラックリファインパーツ協会(JTP)、当機構の3団体で情報の共有や活動状況の相互理解を行うための「自動車リサイクル推進会議」が、11月29日(火)にWEB会議で開催されました。機構からは“第57回自動車リサイクル合同会議で発信した内容”や“次世代モビリティリサイクラー制度”について、リ協からは“外国人技能実習制度の進捗状況”、“オールジャパンによるシステム運用”、電子パーツカタログについて、JTPからは先日行われた“創立20周年式典”と“トラック解体作業見学会・意見交換会”など、3団体それぞれの報告を基に意見交換が行われ、互いの活動状況について認識が深まる会議となりました。

## 第1回自動車リサイクル会議での講演

## 05

自動車リサイクル促進センター(JARC)では資源循環の取り組みやカーボンニュートラルに伴う車の使い方変革などが進むなかで将来起こり得る様々な状況に対応するため、自動車由来の資源循環に係る情報と人材の持続可能なハブとしてのプラットフォーム、ARCIP(アーシップ:Japan Automobile Resource Circulation Information Platform)を設置しており、この取り組みの一環として「第1回自動車リサイクル会議」が12月1日(木)に開催されました。数々の講演が行われたなかで、自動車解体事業者を代表して当機構が、エアバッグ袋リサイクルの取り組み、自動車リサイクル士制度の取り組みの2つについて「自動車解体業界の未来に向けた取り組みの紹介」というテーマで講演を行いました。

■講演資料等はこちらをご覧ください(JARCホームページより)

▶ <https://www.jarc.or.jp/datasurvey202212reult/#gsc.tab=0>

※基調講演の欄に機構の資料が公開されております。



【講演資料】

# 2022年度駆動用HVバッテリー共同出荷事業 11月出荷状況と今期累計

# 06

## 【2022年度 駆動用HVバッテリー共同出荷事業11月出荷状況と今期累計】

上段 11月出荷数 下段: 今期累計【単位: 個】

参加会社数 (社)	プリウス 20	プリウス 30	プリウスα41	レクサス CT200H	アクア / ヴィッツ	カローラアクシオ / フィルター	クラウン HV GWS204
33	28	39	3	0	52	2	0
82	179	380	15	5	350	4	26

クラウン HV AWS210	SAI/レクサス HS250H	日産デュトロ / ブルーリボン	ノア/ヴィクシー / エスファイア	シエンタ HV	プリウス 50	不良品 A~C	合計
4	5	0	0	0	0	20	153
25	21	0	8	6	4	98	1,121

2021年度の結果は以下のURLをご参照ください。

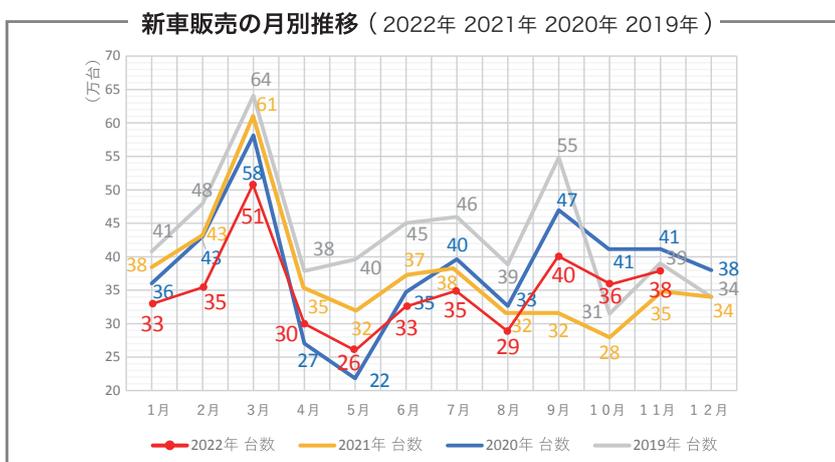
□2021年度の結果はこちら→ <https://elv.or.jp/index.php?itemid=1810>

## 11月新車販売・使用済自動車発生台数

～11月の使用済自動車発生台数 前年同月比7%増～

# 07

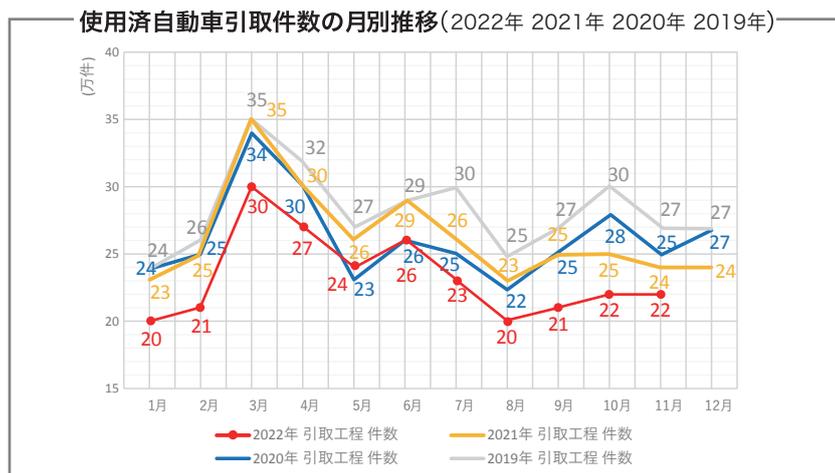
### ■2022年11月度 新車販売台数 377,079台 (前年同月比107.0%)



過去の新車販売台数推移		
年累計	台数	前年比(%)
2022年 (10月まで)	3,856,956	93.8
2021年	4,448,340	96.7
2020年	4,598,615	88.5
2019年	5,195,216	98.5
2018年	5,272,067	100.7

※出所：一般社団法人 日本自動車販売協会連合会

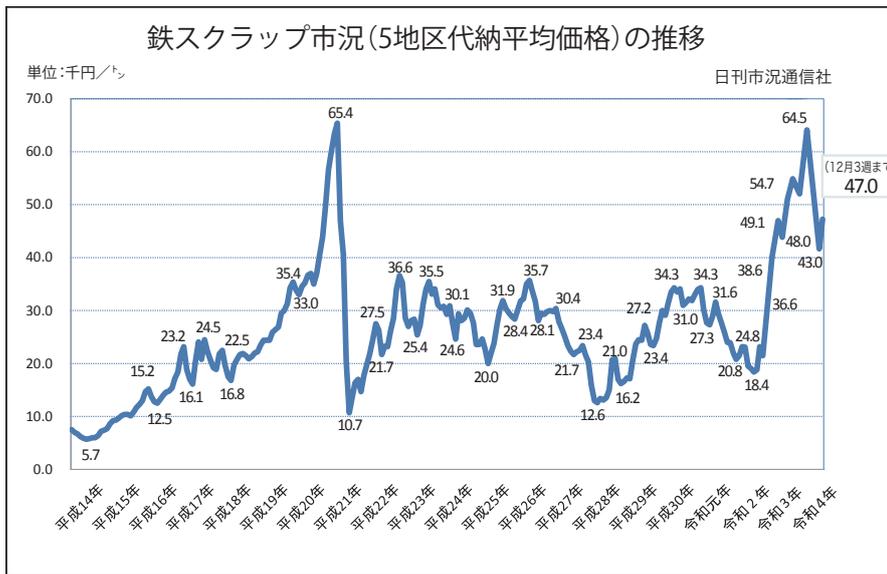
### ■2022年11月度 使用済自動車引取(電子マニフェスト)実施状況



引取件数
218,964件 (前年同月比 91.2%)
フロン回収工程
193,178件 (前年同月比 90.9%)
解体工程
226,401件 (前年同月比 91.1%)

※出所：公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

## 12月第4週(21日)の鉄スクラップ動向



## 12月21日の国内スクラップ炉前実勢価格(中心値)

		H2	気配
関東	北関東	48,000～49,500	堅調様子見
	南関東	48,000～49,500	堅調様子見
	浜値	48,500～49,500	堅調様子見
名古屋		47,500～49,000	強含み様子見
関西	大阪	49,000～50,000	強含み様子見
	姫路	48,500～49,000	強含み様子見

## 現代製鉄 日本産スクラップを1,000円値上げ 日本玉輸出値ピーク感漂う

韓国・現代製鉄は12月19～20日に実施した入札形式での日本産鉄スクラップのスポット商談において、20日午前中にビッド価格を提示。H2を1トあたりFOB50,000円、H1&H2を同50,500円、シュレッダーを同53,000円、HSを同54,000円とした。前回(13日)の提示価格から全品種が1,000円高になった。

前回の交渉後に日本国内で相場が上昇したことを踏まえ、現代製鉄も日本玉価格の追加値上げを実施した。H2FOB50,000円は、東京製鉄4工場の特級価格49,000円と同水準だ。

ただ、日本側のオファー価格は「多くが(FOB)51,000円以上に設定している」(輸出シッパー)という。また、先週の商談では韓国メーカーとの交渉価格が一部でH2FOB換算51,000円に達していた。現代のH2ビット価格はこれらを下回る水準になった。

日本産鉄スクラップの輸出価格にはピーク感が漂っている。ベトナムや台湾の多くは急伸した日本玉を割高と見て様子見姿勢を継続。直近の台湾側の提示値はH2FOB換算49,000円と、伸び悩んでいる。成約難の環境に転じたため今回の現代製鉄の入札ではオファー数量が前回に比べて増加したものと見られる。

## 【関東地区】 堅調様子見も円高の影響など注視

関東市場の鉄スクラップ市況は堅調様子見の推移。鉄鋼各社や湾岸商社・シッパー筋が12月14日以降、それぞれ購入価格を値上げし、一部は追加値上げを実施するなど引き合いを強めている。また、外国為替市場で12月20日、急速な円高が進行した。国内非鉄相場はこれを受けて下落し、鉄スクラップ輸出市場への影響も予想される。H2炉前実勢価格は48,000～49,000円中心。高値49,500円見当。H2浜値は48,500～49,500円中心。

## 【東海地区】 市況は強保合い、年末の発生は例年より少ないとの声も

名古屋地区の鉄スクラップ市況は、強保合い。12月14～15日にかけて3,000円が急伸した後は、1週間ほど模様眺めが続いている。域内の鉄スクラップ発生状況は、年末環境によって底上げが図られつつも、「近年は年末の発生増も限定的となってきているが、例年に比べても更に少ない」(問屋筋)とする声も聞かれるなど、盛り上がり欠いている。H2炉前実勢価格は47,500～48,500円中心、高値49,000円見当。

## 【関西地区】 強含み様子見、需給のタイト化へは至りづらい状況

大阪地区の鉄スクラップ市況は強含み様子見。12月19日以降、電炉入荷の落ち着きが指摘され始めている。足元の荷動きを考慮すれば、東京製鉄の出方次第では続伸の可能性が残るが、電炉は全般的に在庫余力を抱えたままの状況にあり、年内にかけては需給のタイト化へは至りづらい。このため依然として地区単独での上伸力は欠如している。H2炉前実勢価格は、大阪地区が49,000～50,000円中心。姫路地区が48,500～49,000円中心。

(※価格、数量等は日刊市況通信社調べ、12月21日午後時点のもの)

# 行事予定

## —令和5年1月の主な行事予定—



- 1月10日(火)  
・第10回広報部会 (WEB)
- 1月19日(木)  
・J-FAR (樹脂リサイクル社会実装事業) 定例会 (WEB)
- 1月19日(木)・20日(金)  
・東北ブロック見学会 (愛知県)
- 1月25日(水)  
・関東ブロック会議 (対面)

※急遽、日程の変更・延期の場合がございます。

## お知らせ

### 2022年度自動車リサイクル士新規講習会 合格者の発表！

今年度、全国7会場で実施した、自動車リサイクル士新規講習会の試験の合格者が発表されておりますので、受験いただいた皆様は以下のURLよりご確認下さい。

なお、合格者の皆様には、後日認定証・認定証カード等が送付されます。  
(1月下旬以降に随時郵送)



【認定証カード】

#### ■合格者一覧(受講番号での発表となります)■

<https://www.elv.or.jp/media/20/20221212-2022zirisigoukaku.pdf>

※受講番号が不明な場合は機構事務局までお問い合わせください。

## 編集後記



また一つ無事新しい年を迎えることができました。

一つ年を取ったということですが、ただここ数年は以前と比べると時代の流れが驚くほど速く感じ、私自身時代の移り変わりについていけない所もあります。私も含めて現代人は時代に取り残されぬよう、正確な情報を収集し、何事にも勉強を惜しんではならないと思います。

そう言えば岸田文雄首相は昨年の衆院本会議の所信表明演説で、個人の「リスクリング(学び直し)」の支援に力を入れると表明しました。私には聞きなれない言葉ですが、リスクリングとは「新しい職業に就くために、あるいは今の職業で必要とされるスキル的大幅な変化に適應するために必要なスキルを獲得する、またはさせること」だそうです。

なるほど、リスクリングを行えば私も含め社員皆が新しいスキルを習得でき、社内に新しいアイデアが生まれるかもしれません。そのため、リスクリングを上手く活用できれば、事業の陳腐化や時代の移り変わりによる、経営悪化を防げるかもしれません。社内に新しい風を吹き込み、時代に取り残されない企業作りをしたいものです。そのためにも是非今年には岸田首相には我々の業界にも多額のリスクリングに対する予算を投じて欲しいと願いたいものです。

(広報部会 部会長 田村 幸男)